

## 白虎池

神宮庭園にある白虎池とその他の池の水は琵琶湖疏水を通り、10km 東にある、滋賀県の琵琶湖から引かれています。琵琶湖疏水は、19 世紀の終わりに行われた最大規模の土木事業の一つであり、1885 年に着工しました。計画の第 1 段階は、平安神宮が創建される 5 年前の 1890 年に完了しました。

白虎池と他の池には、様々な植物と動物が生息しています。その中には、琵琶湖に生息する魚や淡水に生きるシジミ類が含まれます。池で見られる、体に横切る 1 本の縞を持つイチモンジタナゴ (*Acheilognathus cyanostigma*) は、絶滅が危惧される固有種の条鰭類です。

白虎池には 200 近い種類のアイリスが植えられており、また、日本と韓国に分布するコウホネ (*Nuphar japonica*) を含む数種の睡蓮も見られます。コウホネは一般的に見られる睡蓮種と比べて、小さく、より丸い花を咲かせます。睡蓮とアイリスは、白虎池で 6 月に花を咲かせます。

白虎池は神宮庭園入口の横にある白虎楼と同じ名前を冠しています。どちらも、古代中国天文学の四象の一つである、西の白虎にちなんで名付けられています。